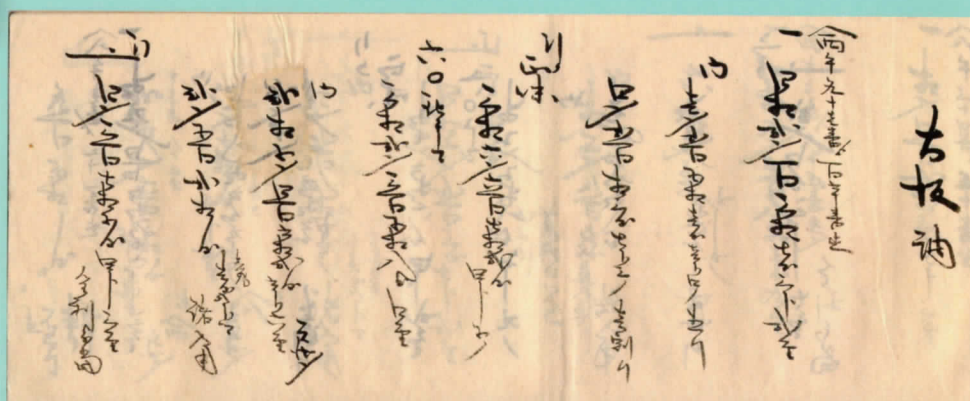
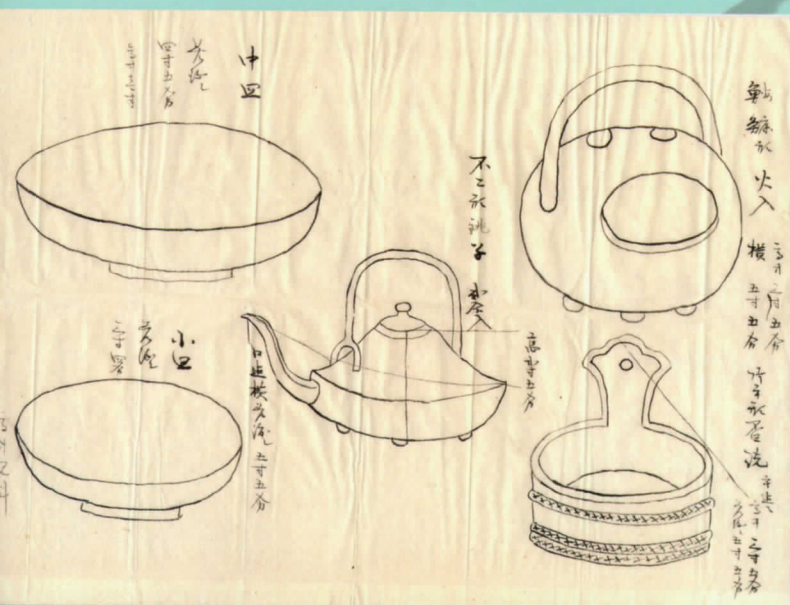


西浦家文書 多治見市有形文化財指定記念

幕末の陶器商

西浦屋



はじめに

西浦家は5代まで圓治を襲名し、幕末から近代の多治見村の村政や焼物産業の振興に力を注いできました。江戸時代には美濃の代表として生産販売の取締りをし、尾張藩や江戸幕府との折衝もおこなってきました。その一方で自らも販売店を経営し江戸・大坂に店を開くなど、美濃焼物の販路を築きました。また明治時代になると西浦焼と呼ばれる質の高い磁器製品を生産し、海外にまでその名を広めていきます。

平成28年4月25日に西浦家に代々伝わる古文書が多治見市有形文化財に指定されました。この西浦家文書は江戸時代中期から大正時代までの3821件の古文書です。村の経営に関する地方史料のほかに美濃焼物生産・販売の歴史を体系的に知ることのできる史料が多く含まれています。さらに美濃焼物の中央市場や海外への進出など経済が近代化されていく歴史をひも解く上でも貴重な史料です。

本展覧会では西浦家文書を中心に美濃焼物の歴史や、商家としての西浦家の歴史を紹介します。また多治見村の村政に関する資料や、幕末・明治期に美濃で焼かれた焼物なども展示します。

序章 西浦家文書調査の歩み

西浦家文書は門外不出の史料として代々の当主により保管されてきましたが、昭和33年(1958)刊行の『^{たじみふどき}多治見風土記』(加納陽治著)で初めて解説文の一部が掲載され、その存在が知られるようになります。その後多治見市史の編さんにもない西浦家文書も調査されました。その結果同51年(1976)に『多治見市史窯業史料編・在地史料編』、同55年(1980)に『多治見市史通史編上巻』、同62年(1987)に『多治見市史通史編下巻』が刊行され、近世の美濃焼物生産販売の概要が明らかになりました。平成20年度から多治見市教育委員会により西浦家文書の^{しっかい}悉皆調査がおこなわれ、同28年(2016)4月には美濃焼物の歴史を知る上で欠くことのできない県内唯一の産業史料であるとして、多治見市有形文化財に指定されました。また、同29年(2017)には『西浦家文書目録』が刊行されました。

第1章 西浦家代々について

西浦家の遠祖加藤助兵衛は、尾張国^{やどこ}岩作村(現愛知県長久手市)加藤市右衛門の子で、初め可児郡久々利村へ移住し後に、多治見村へ移り鍛冶を業としました。代々加藤姓でしたが明治時代になって西浦に改姓しました。

初代 加藤治助 文政12年(1829)没

助兵衛から4代目勘十郎の弟与三郎が^{じゅさん}寿算家を起し、3代寿算の兄助六の子が治助で、のちの西浦家の初代となりました。治助は^{しろがね}白銀町(現多治見市御幸町)に本宅を建て、また質業を営んで多治見村内外の土地集積をするなど、西浦家の礎を築きました。^{しんら}新羅神社の棟札には治助の名が見られ、村役人として活躍していたことがわかります。

2代 加藤圓治 文久元年(1861)没

文政3年(1820)に治助の次男圓治が2代となり、同年多治見村庄屋となり、村役人としても活躍しました。このころ割木販売をはじめ、同6年(1823)には大^{かわ}川村・水^{みづかみ}上村(現瑞浪市陶町)の窯株6通を譲り受けて焼物生産に関与していきます。天保6年(1835)には多治見村に設置された美濃焼物取締所の取締役となり、同12年(1841)には尾張藩勘定所立入を許されました。嘉永2年(1849)に笠松役所より苗字帯刀が許され加藤圓治と名乗るようになります。同7年(1854)に隠居後は九六と改名し、3代圓治に跡を譲りました。



西浦家歴代肖像 (参考資料・個人蔵、写真提供 多治見市図書館郷土資料室)



3代 加藤圓治(西浦圓治) 文化3年(1806)生 明治17年(1884)没

2代圓治の兄の子で、はじめ慶九郎、元服して道助と改名しました。2代圓治の養子となり江戸・大坂方面への販売をするなど、様々な面で父の代理人として活躍しました。弘化4年(1847)に五郎兵衛と改名し西浦江戸店を開店。嘉永7年(1854)には3代を継いで圓治と名乗ります。安政3年(1856)に孫まで苗字御免、その身一代帯刀を許されました。明治13年(1880)の明治天皇行幸の際には自邸^{あんざいしよ}を行在所として提供し、またこのころ西浦と改姓したといわれます。また同年に販売会社濃陶社を設立しました。

面識のない大坂商人に「美濃の西浦という人、しみじみ(よくよく)逢うことはなけれど、美濃尾張のやり人と聞き及ぶ」といわれるほど度量の大きな人物といわれます。

3代圓治 (写真提供 多治見市図書館郷土資料室)

4代 西浦圓治(五郎兵衛、耕) 弘化3年(1846)生 明治28年(1895)没

3代圓治の子。明治17年(1884)に多治見村で私設消防組を組織し、同19年(1886)には多治見橋の架け替えを私費でおこなうなど、公共事業に尽力した人物です。同21年(1888)に隠居し、耕を名乗りました。

5代 西浦圓治 安政3年(1856)生 大正3年(1914)没

4代圓治の甥で、はじめ繁太郎のちに五郎兵衛と改名。明治21年(1888)に4代が隠居すると跡を継ぎました。同26年(1893)には多治見町長に就任、翌年には国庫補助を得て多治見町立工業補習学校を設立するなど村政や窯業教育に尽力しました。また、自宅前の屋敷を絵付工場に改造し磁器製品を生産、同22年(1889)に名古屋東区に400坪の工場を建築して生産拡大を図りました。同20年代には多治見尾張坂に窯を築いて工場長に西浦辰太郎を起用。同28年(1895)には多治見貿易合資会社を組織し、アメリカ・ボストンに支店を開くなど販路を海外へ拡張しました。



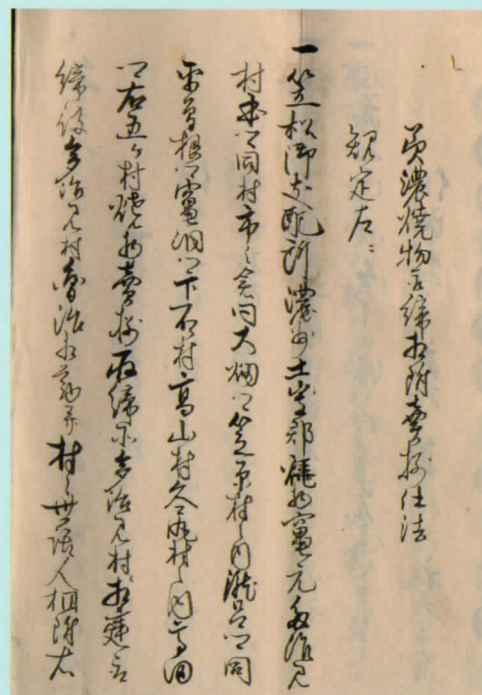
5代圓治 (写真提供 多治見市図書館郷土資料室)

第2章 西浦家と美濃焼物

江戸時代中期、美濃の幕府直轄領の焼き物(多治見村、笠原村、下石村、久尻村・高田郷、高山村等で生産)は窯屋から直接名古屋商人などへ販売されていました。享和2年(1802)に尾張藩蔵元制度が確立されると、翌年には美濃焼物の多くも「尾張藩御国産」として尾張藩蔵元を通して販売されるようになりました。

美濃の生産地では尾張藩が後ろ盾となり美濃焼物販売に拍車がかかることを見越していましたが、尾張藩から支払われるはずの荷代金がたびたび遅滞し、また多重にかかる手数料のために次第に困窮していきます。ついに天保3年(1832)2代圓治とのちの3代圓治らが中心となり、美濃焼物を江戸で直売するため「水揚会みづあげかい所設立運動」を起しました。しかし江戸・名古屋の瀬戸物問屋からの反対もあり実現することはありませんでした。

水揚会所設立運動は失敗に終わりましたが、その3年後の同6年(1835)に「美濃焼物取締所」が多治見村に開設され、美濃焼物の尾張藩蔵元への販売窓口が一本化されるようになりました。取締役には2代圓治が就任し、生産・販売の鑑札の交付や抜け荷などの取締りもおこなうようになりました。これにより販路の拡充や荷代金の円滑な回収、価格の統制が可能となりました。



天保6年美濃焼物取締規定(西浦家文書・個人蔵)

第3章 商家西浦屋

西浦家は多治見村で「西浦屋」という屋号で焼物販売をおこなっていました。文政3年(1820)に割木販売を始め、同7年(1824)には徳利を江戸向けに販売、同9年(1826)には新製物しんせいもの(磁器製品)を大坂向けに販売したという記録が残っています。弘化3年(1846)に大坂西横堀町に大坂店を、翌4年(1847)には江戸日本橋堀留1丁目に江戸店を出店し、多治見村の本店とともに中央市場へ参入していきました。

本店は多治見村本郷にあり、5代圓治の実父・勘三郎が支配人として活躍した記録が残っています。本店では主に美濃で生産される徳利、磁器製品を江戸、大坂、甲州、出羽、越後、越中や近国へ販売した他、割木、呉須、皮灰、イス灰などの陶磁器原料や米、味噌、塩、反物などの日用品を窯屋へ販売していました。

江戸店は従来の得意先であった近江屋喜兵衛が経営不振となり、問屋株を譲り受けて開店したのが始まりです。支配人は妻木村出身の吉兵衛で、安政5年(1858)には12人の奉公人が働いていたことがわかっています。江戸店では美濃焼物、瀬戸焼物、京都・信楽、有田焼、相馬焼などを江戸やその近隣、陸奥方面へ販売していました。

大坂店の支配人は安兵衛で、同4年(1857)には名古屋商人に代わって京坂・西国への美濃焼物販売を独占するようになりました。美濃焼物、瀬戸焼物の他、京焼・信楽を畿内、紀州、四国、山陽、山陰へ販売し、九州地方から仕入れたイス灰や呉須などの陶磁器原料を本店へ販売していました。

幕末から明治時代に美濃で作られた焼物



市之倉中2号窯出土の妬器・磁器の茶碗、御神酒徳利、小杯
(多治見市教育委員会蔵)

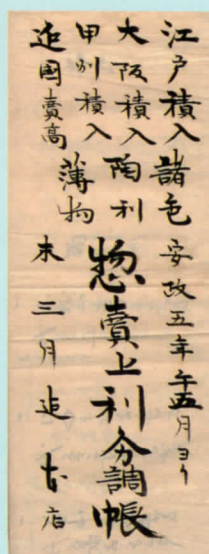


高田大ザヤ窯出土の徳利
(多治見市教育委員会蔵)

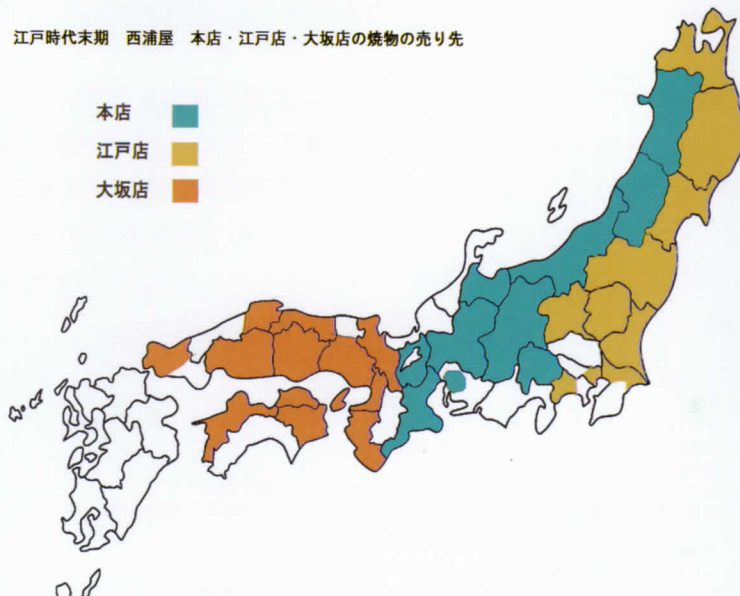


西浦屋江戸店印章
(西浦家文書・個人蔵)

安政5年西浦屋本店総売上勘定帳
(西浦家文書・個人蔵)
本店が江戸、大坂、甲州、近国へ
売上げた諸色・陶利(徳利)・薄物
(磁器製品)の勘定帳



江戸時代末期 西浦屋 本店・江戸店・大坂店の焼物の売り先



第4章 西浦家文書にみる多治見の幕末・維新

西浦家文書には村政史料や幕末期の動乱を示す史料も多く残っています。これらの史料から当時の多治見村の人々の暮らしを知ることができ、また近隣地域の様子も垣間見ることができます。

なかでも字名と土地面積・所有者を示した絵図の新田開発史料が多く、現在の多治見市坂上町や平野町近辺一帯が幕末から明治初期にかけて新しく開発された地域であることがわかりました。また安政年間に土岐川流域の支流でおこなわれた「石砂留(砂石留とも)」という治水事業に関する絵図も数多く残されています。これは土岐郡挙げての大事業で、その背景には美濃焼物の生産量急増とそれに伴う原料の採掘があったとされています。

また開国や公武合体運動など、幕末の日本を揺るがした事件の波はこの多治見にもやってきました。安政5年(1858)の日米修好通商条約締結後は海外貿易の道が開かれ、隣の瀬戸では輸出用磁器製品の製造を開始しました。具体的な販売については不明なものの、西浦屋江戸店でも開港したばかりの横浜への出店を検討した史料が残っています。孝明天皇の妹・和宮が将軍家茂へ降嫁するため文久元年(1861)に中山道を下向された際には、多治見村からも160人もの宿継ぎ立て人足と馬を差し出しました。その後高揚する攘夷運動におされ、幕府は慶応元年(1865)に幕府直轄地からも農民を兵隊に徴収する兵賦令を發布し、多治見村・笠原村からも2人徴発され江戸へ送られました。西浦家文書にはこのような記録も数多く見られます。



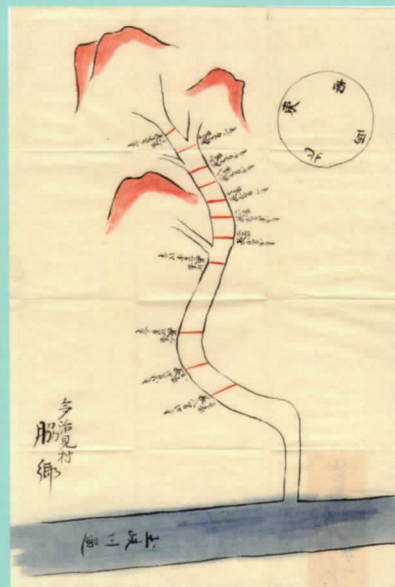
多治見尾張坂に作られた西浦の登り窯
(写真提供 多治見市図書館郷土資料室)

第5章 明治時代の西浦家～西浦焼～

明治5年(1872)に美濃焼物の生産販売が自由となり、多治見村はその集散地として活気にあふれていきます。土岐郡下の陶磁器生産量は同7年(1874)には全国1位となりました。しかし当時の美濃焼物は大衆向けの粗製廉価のものが多く、3代圓治はこれを遺憾として美濃焼物の質の向上に努めました。同6年(1873)のオーストリア・ウィーン万国博覧会、同12年(1879)のオーストラリア・シドニー万国博覧会では美濃の出品世話人として活躍し、良質な海外製品を目の当たりにします。この翌年に陶磁器販売会社濃陶社を設立しました。また名工加藤五輔を製造主任に迎え、市之倉の自家工場で精巧な細密画によるコーヒー碗・乳入れ・

水指などの輸出向け染付磁器の製造も手がけていきます。同 21 年 (1888) 以後は 5 代圓治に引き継がれ上絵付製品を製造し、次いで同 30 年代には釉下彩ゆうかさいによる色絵吹絵製品を創出しました。同 28 年 (1895) に多治見貿易合資会社が組織され、5 代圓治も代表の 1 人となり同 32 年 (1899) にはアメリカ・ボストン支店を開きました。これにより美濃からアメリカへの直接販売が可能となりました。また、このころ西浦焼は多くの賞を受賞します。同 14 年 (1881) の第 2 回内国勸業博覧会で濃陶社製花瓶が有巧賞牌三等を受賞したことにはじまり、同 22 年 (1889) のフランス・パリ万国博覧会での銅賞、同 37 年 (1904) のアメリカ・セントルイス万国博覧会での金賞受賞など、西浦焼は世界の舞台で花開いていきました。

しかし明治末期には西浦焼生産は廃絶しました。その理由として圓治が発起人であった第四十六国立銀行の破綻や鉄道事業の行き詰まりなどが考えられます。その技術は途絶えてしまいましたが、多くの里帰り品や国内にとどまっていた製品により西浦焼の往時の盛隆を知ることができます。そして今もなおその美しさ、技術の高さによって私たちを魅了し続けています。



脇郷川通り砂石留普請箇所絵図面
(西浦家文書・個人蔵)



西浦焼磁器釉下彩透かし彫秋海棠画花瓶
(多治見市教育委員会蔵)

【主要参考文献】

多治見市	1976	『多治見市史』 窯業史料編	
多治見市	1980	『多治見市史』 通史編上	
多治見市	1987	『多治見市史』 通史編下	
高木典利	2000	『西浦焼』	
山形万里子	2008	『瀋陽器専売制と中央市場』	(日本経済評論社)
岐阜県陶磁資料館	2008	『華麗なる明治の名品 美濃西浦焼展』	展示図録

【謝辭】（敬稱略）

小木曾郁夫 春日美海 高木典利 西浦千秋
幸兵衛窯 新羅神社 多治見市図書館郷土資料室 土岐市美濃陶磁歴史館

多治見市文化財保護センター企画展パンフレット
多治見市有形文化財指定記念企画展
「幕末の陶器商 西浦屋」

- 展示期間・場所 平成29年3月13日（月）～8月25日（金）
多治見市文化財保護センター展示室
- 発行 多治見市教育委員会・文化財保護センター
〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26
TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033
URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>
- 発行部数 1,000部（印刷費用 19,980円）